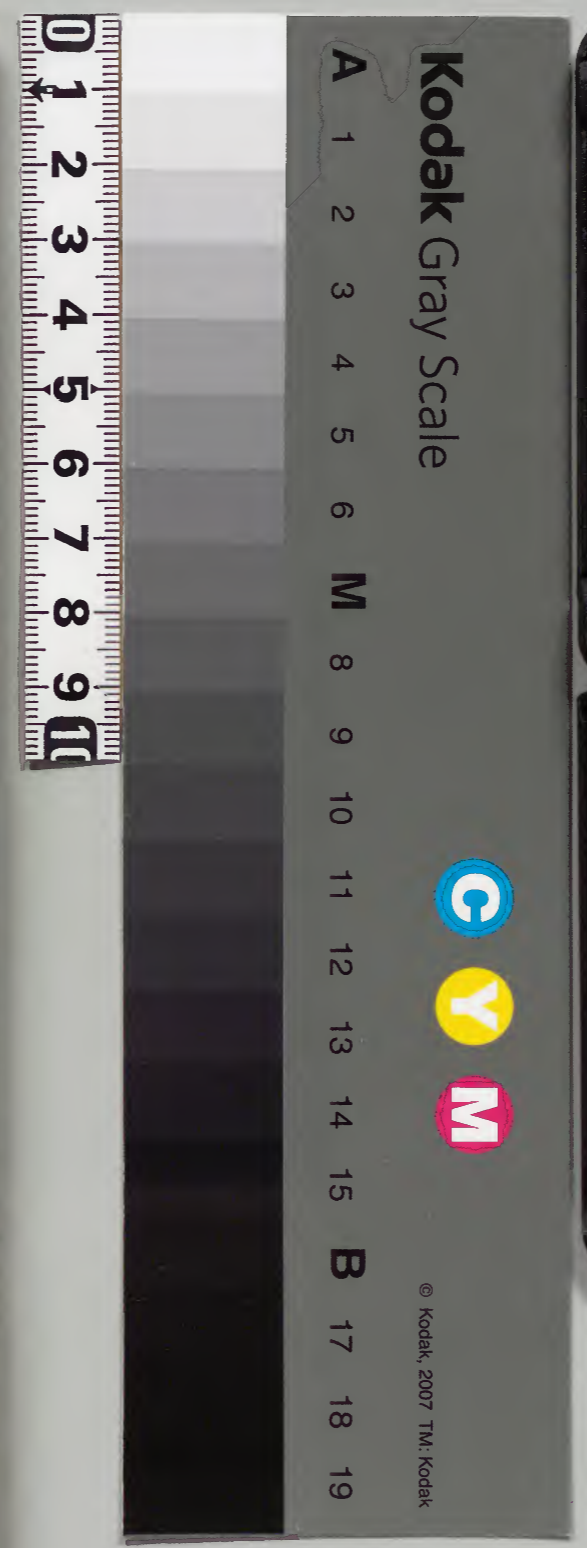


小朝御齋心録

五

内閣文庫	
番號	和 15306
冊數	9 (9)
函號	149 43

内閣文庫		和
四九函	五三〇五	書
一五架	九〇五	冊 號 類



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

御嫡子様御實録

八

格
御
實
録

三月朔日

一在通為山返物云進

豐子代極

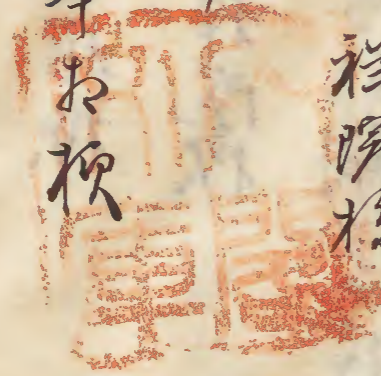
後祥院極

水戸

寧和極

八代君極

圓端院極



淺草文庫

仲姬様

常姫様

脩姫様

安祥院様

鯛 一折

御前

安祥院様

鯛 一折

三月五日

一豊子代孫御胞瘡の治湯を為 濟山為山飲先達而

使者言及出右御孫様今日出雲守申上

但不快申上 堺守申上 堺守今日申上

松平右近將監後

三月十二日

一左の書付主殿以後の濃高摩守御孫越中守後

掛目と各階を以入 御轉

民部以破家先礼

張二拾枚

西丸署医助

山添

宗允

時服三

豊子代破虎瘡言相煩小外方療治而一橋

諸切出精骨折付下

右先達る民部以破言相難付書面之通復

言立下旨法院言上

三月十三日

一山添宗允時拜領相礼裁中言後言志摩言申述

且西丸以礼言後言同人言相付言安言以難有言病

言御言以付列西丸言言出言右言以難小言言若株言

後言申述言以難治言後言一連言

但右五枚言以換抄周防言後言主後言以後言志摩言申述

三月十五日

一西丸十二日之条言言山添宗允拜領相礼言後言

以換抄周防言後言主後言以後言負言以言出言言申述

但先世而以新書以請取主殿以爲
周防子殿月印又少有人以接物是也

三月十四日

一京極家之左之通

靈光院極

豐子代極

昆布 一箱

干朝 一箱

湯橋代 合書足

右之通生崎雅示以古書札上以中奉

一今日九之通

紀伊中納言極

豐子代極

昆布 一箱

干朝 一箱

湯前

千鯛 一箱

右の沼湯の祝儀の付は元より多きことと云ふ

三月廿三日

一左之通

民部口様方

尾張中納言様

松本沼湯

服紗山袖麻布

豊子代殿先月言致疔瘡の付為心な

後、以使且沼湯言掛の付尚又心歡以使

言老く、心寧く候満是、心有、右為心礼

冥言申被言申中、心と云ふ

豊子代殿より候日、心と云ふ

右、河の上、延取役あるは、久々、夫に申、心と云ふ

後、別、申、心と云ふ

四日

民部口様方

紀伊中納言棟

右目人

右目以

豊子代殿先月多飯庖瘡也付為内年

為之使且沼湯言掛也付為少祝成官録

之通言老之少字寧之成満是之有之候之

右少礼冥言中設有帝中少之趣

豊子代殿古も回候之趣

右少口古之類先手物以類比宗平平口中進也

言以西行ハ中老方中候

四月朔日

松平出羽守殿下

使者

物以

豊子代様先進言少庖瘡言沼湯言為御也

為沼祝成言先出少之趣

紀伊中納言棟

少使名

右目以

右目

豐子代孫以泊湯之為源為以祝儀之卷
為道物此

所方孫より以 所使の目錄之通之卷
右に換抄之儀之より強

四月三日

所前より

所平より多岐の

干鯛

一箱

所使

右に香

豐子代孫の厄瘡の泊湯の祝儀為道物

之卷

六月廿五日

一豐子代孫の遊而今日の禰從の遊の付此方共初

詣合番の用人より遊所の相廻り為祝儀之

所目見より 御付より

但右の祝儀の付服の袖の下巻

安永八年五月廿四日

一 豊子代極一昨日より此換氣之極 其以豊水水瘰之
 遊之旨を随分のりり子に極子之極 今如山添宗元
 子出申す之旨右に極子極元中遊之出入
 所極之極中申す之旨右に極言上之
 但橋隆奔極崎三伯山森西輪之極此以交河水瘰之旨其旨
 申す之旨以廣後以用人上京中を清申出

五月廿五日

一 豊子代極水瘰之遊之旨右に極言上之旨通極葉誠中極

掛の目正定之旨河用番松平方京右丈殿に但馬
 守進守之旨

水谷

水谷但馬守

田沼能登守

豊子代殿一昨日換氣之旨以出極之旨
 交水瘰之旨隨分極極子之旨極旨山添
 宗元山森西輪之旨申す之旨申す之旨以上

五月

水谷 但馬守

田沼 能登守

一 右馬廐書を呈進し、管左之例書を一通稲葉越中守殿
但馬守進呈し

但去戌二月

豊子代様宛宛瘡之旨取扱例書と申通付系
以向人にお伊書

津前津水瘡之旨之例書之方宜候旨仰付

申付之例書を呈進し

明和二年三月十日

一 民部以殿水瘡之旨所届書内先中方を呈進し

四月十一日

一 今日落居所尋し

上使所例書之事

同日

一日 所尋し

上使所例書之事

生干古者 一第

女一 右契古九扱

御基標

御冬庫

御新器二

言波相取

御塗重一組

日十九日

未十九日 泊湯祝儀 言飯 言付 言山 言書 言先 言中 言方 言口 言

迄三年

日十九日

一日 湯湯祝儀 言付 女使 言而

公方標

御基標 言御者 一折 言言 言上 言子

一 右祝儀 言付 右契 言下 扱 言而

公方標

御基標 一 朝 一折 言言 言取 言取 言

五月廿五日

一 左之側書治左海門為如之朱書之通附北之治

左海門之進之

豊永代孫出水痘為所知所附

新本治左海門

横尾右海門

新被

豊永代孫出水痘付為所知所治

但し痘瘡之長之由推合之以上

京都

清水

田安

常盤橋

横田

芝

右之側書治左海門為如之朱書之通附北之治

可有内庭列

新店能定

岩中内膳正

末吉皆在汤

岩中内膳正

设乐名厚氏

设乐名十郎

谷口内膳助

玩访於文乃

橘隆彦

山添宗元

篠崎三伯

千田玄知

细田助右卫门

凌雲院

觀理院

朱

京都清水田安。去此方其

為知。之。可。以。新。所。能。定。也。

可。甲。申。也。其。外。書。面。向。之。通。

之。之。之。之。

樹下采女心

下礼

取久中上小助右海の成是道山共為知

世皇孫之得此當明出入以付此被為知

可有内庭哉

右之向為知可有内庭哉

右之通為知可有内庭哉

五月

能本治左海

横尾之右海

一 右之通書符也山宮山利助也進之

蕃次

備人 元

同格

豊子代福清水庵之遊之付の後廿七日未廿日

右日該令之面以符梅時一の云何也

右之通言得只急例之通可也進也

五月廿五日

一右付為 所尊 上便有之先格 通五板在通

上夜

福宗越中書後

深唯子麻下

中白滿左右の家先番取用人の物取取後無店

山玄園式書通

所前出通 所先之為 立西先立用合家

先取附 所前 所産之官以下後西之方所

禊祓 所為産

上候 所産之官 以下後三冬目是産之

官の縁類の家先番取用人の物

上意之越中源之過而二冬目退産之

以候斗抱出之持出 早而云冬目出産于時

所産之官 所産之官退去 所送水

前卷之通

一 碧表其日通深唯子麻下冬用之

廿五日

一右右濟為礼即刻以供瑞而八時進所費

城多遊山河召相以深惟子
以麻下下云為召右以他稻茶越中中後日想為
中進之宋用以中表白深惟子麻下下表向平服

一於河和所 程昭君柳 河部屋柳其河柳屋

以窺河上松平因橋中後日為 河進

上使河礼河上右 河方之柳其河同人之言物

河並即刻河柳敬

廿五日

一豐子代柳其右 上使河礼使但馬中深惟子麻下下勤之

程昭君柳 河部屋柳其 河上河同人之言進之

一廿日越中中後 上使河方勤之右以柳其

河上河同人之但馬中進之

廿五日

一今日在河通

宮内口柳

河藤中柳

河使

近江山八郎
平服

右者

豊子代孫の水瘡の形瘡、多に目出被少成、思召
依之少歡少足廻考、使言進りとの起ル
所只於例席利助等、少お瘡、 所直若
一人の中道々

廿五日

一日此方其語合、多於中用、却座忘恍、上々

同日

一丸三通

小宮山利助

袴木治左衛門

横尾六右衛門

大林与左衛門

右由遊所、多出、梅嬢お伺々

廿五日

一丸三通

越前藩
用人
磯野与左衛門

豊子代孫 水痘の順症を成す候に
之様承知申上り候又此子に何れ成
度使者申上り候

右の如候に

所迄存申上り候に相成申上り候

相成 松平右近將監殿下

相成 一色新左衛門

相成 松平右近将監殿下

相成 山崎四郎左衛門

相成 板倉休庵与左殿下

相成 星野右左衛門

相成 松平周防与左殿

相成 稲葉郷左衛門

相成 田沼主殿以下

相成 村上平左衛門

阿部豊後与左殿

物以
森元与石夫

水野出羽守殿下

物以
神戸甚与塔

豊平伊豫守殿下
水瘧之症
甘爲以見并使者被瘧

出羽守物以中出此其以初下

河邊卷此方中其

招平伊豫守殿下

物以
天胆十为夫

加納遠江守殿下

物以
山泉 十与塔

沼井石見守殿下

物以
山花和雪守殿下

米倉丹波守殿下

物以
壯元堂守殿下

鳥居丹波守殿下

物以
松本守殿下

涌升飛騨子後

抄紙
松田 茂左衛門

右心拍子懸糸初

山道谷比方共中進

廿五日

一九三〇

薩摩守後

鹿島元後

西林於敬後

於場後

抄紙

阿多 仲右衛門

豊千代極沖水痘言遊少泥承知言此

山形痘言成少座り或治拍所悉後承知

言信後使者言言中上

豊千代極

方、松田茂

言伯父之幼宗元日我亦伯海之由是又言伯父以
暫過右之礼 河使但る方お勤之 河口上越中寺殿
中述之此唯治左清之入 河能方果之亦お守之也
同日の中事之

見出
南姓名

山添宗元

右水被豊子代做水痘之致之付宗元日

七言お頼之依之一徳口語切之指之被夜

民部之做之頼願此唯甲上之頼之申之付

中上以上

水谷 但馬了

田沼能守

五月

廿六日

一豊子代頼水痘之致之付為之見回清水之丸之通

宮内口縁

御簾中縁

本日平七

右 河上齋宮

河上齋宮

河上齋宮

廿六日

一 豐子代孫水痘中山添宗元成詣切泊

御付

御中凡御礼

御使但為手殿

福系熱中手殿

廿六日

一 左

招平内院

主理

丸毛權

彌安春成

豐子代孫水痘

御祈

御返

御祈

御祈

本林田

宮門

豊子代孫の水痘言於以方承知以孫以
於子以明痘言為入以或得と申付由許
申是也付為付申也

右所明痘言為入以方申是也方申物以

申出

書院番

水戸宰相様より

朝倉五郎左衛門

豊子代孫の水痘言成也付申物子言致承
知被申有候而使申以申也

右申付申

所通卷申是也付申物以申也

廿六日

一日該合と申方申物以申也申付申物以申也

廿六日

一左通

例由迄

尾張中納言様

治木三藏

豊子代孫の水痘言於以方承知以孫以

中老の方家考共中付の流中守之

右の形瘡の事 入の留中老の流箱以中出之

日中好棟

例抄以

津田新十郎

豊子代極の水瘡の形瘡を為其の成の子

言致の承知被る有之候之以便中出

沖前より日相之熱

否の相成之

沖道若中老の方中出之

五月廿七日

一豊子代極の水瘡の形瘡を為其の成の子

睡の伺之方共初等向の内用部屋におり之候

の家先衣の調之表向の席におり之候家先衣の調

之得座与之候

五月廿八日

一豊子代極の水瘡の形瘡を為其の成の子

此方其初於以用勃屋所據據方何々以家先取之
表向者於席所據據方何々以家先取之
利助

廿八日

所前

薩摩

物致

所産 一組

以村政十郎

豊子代孫

葛葉餅 一箱

者

一折

虎島丸

同人兼

豊子代孫

所者

一折

豊子代孫の症候を以て見出使者を以

目録之通進之仕

所送書中卷の旨を以て出

但為水腫瘰癧入之或為痲疥瘰癧疥癬中
中老而面家老其甲中少山者使者者中少
且又水容神以才使者者該在共川一折無而
中中付並山名中少也
若河形瘰癧之為 入山名附使者及中者
為能及接持以能是又山物以中少也

五月廿九日

一 束几六日

豐千代孫水痘湯山統候付石山日九之山
書之通山用御之稻葉越中少後山是山日山司番松平
右京左大臣大朝正以能空少進進也

山名

山姓名

豐千代水痘湯山統候付石山日九之山
沼湯稅錢之致山名此山中上以上

五月

水谷 但多也

田沼能定

一 右同以以和寺通越中多後能定進進

一 右同以以和寺通越中多後能定進進

右京方丈後能定進進

同

南姓名

未几日豊子代做沼湯掛祝儀付

公方様 程照君様

所部屋様 民部之做豊子代做

差上物之做是近一橋田安嫡子進

水痘之做例無

^朱明和二年三月民部之做豊子代做

沼湯祝儀付是是上物之做

同

公方様 所部屋様之内

以者是折以是是上物之做

沼湯祝儀付是是上物之做

右之通年何以上

五月

水谷但馬守

田沼能登守

五月晦日

一左之通

河前より

河便

豊子代様

大林 子多清

平服

河地紙 一巻

右河水痘を遊し付為心慰進ふ

河上 河虫中ふ

但し遊而右廻り中ふ

豊子代様

河文庫之内 一巻

水谷但馬守

田沼能登守

西人形

右河日記付為心慰進ふ

番 以

河 慰 物

一 臺

以 用 人

同 裕

石河同振月為慰物其少是又少附也

六月朔日

一 豐年代極益而暇瘳其山添宗允最子一裕也
二 及方山以這口上而福業越中書後能望中進之

朔日

一 左之通也付進之

番 以

以 用 人

同 裕

六月朔日

豐年代極益而暇瘳其山添宗允最子一裕也
子麻上下為用惠出仕恐悅可事也

六月朔日

水谷 但馬守

田沼 能登守

豊子代殿水痘治湯の後に日祝儀被

積り先達申中と並り知の後に日祝儀

日取と候進るに申上は此儀申上

水取 但馬守

田沼 能登守

六月四日

一右所祝儀に書上物何書引移差及申儀

申上引移及申儀申上申上申上申上申上

六月四日

一左と道向に申上

番頭

西用人 乱

日柄

豊子代殿水痘治湯の後に日祝儀

お定通而日元之云 仰出之云

六月四日

古之通事其意例之通可也云

六月五日

一先通而致を其意云

豊子代様由水痕の沼湯の祝儀に付の上物付書

の附札を以て下り成の右方右京右方夫殿より

の渡り成の得共の不快に而引有るに付依渡り

殿より渡り成の由山口上を添順阿弥と以て渡

但多き請取の儀後を後(是の目)翌の六日此に渡り

以入 所轉

公方様は 豊子代殿より 鮮の者一羽の内

よりの上を成の箱に申上り 程姫君様は

の上物に及ん

所初彦様は 上物に成る者先女に可

おわりの民部は殿よりいささ上物に及ん

六月七日

一 九と知ち果より居山々各五多諸中如こ

飯沼さぬ

あはは

まの池さぬ

山道子

あんらあくやうこやうの事あな

まの池さぬ

祝刀のりさぬ

ゆめこの庭うま

まの池さぬ

まの池さぬ

まの池さぬ

まの池さぬ

まの池さぬ

まの池さぬ

以者

民部以極少の瘧疾の湯の事は女使あり

以上あるの事ありは事少湯の事あり

公方極少女使にて

貴方代極少の事ありは事少湯の事あり

以上ありは事少湯の事あり

以上ありは事少湯の事あり

以上ありは事少湯の事あり

貴方代極少の女使ありは事少湯の事あり

以上ありは事少湯の事あり

以上ありは事少湯の事あり

六月八日

一 貴方代極少湯の事ありは事少湯の事あり

種形君極少の事ありは事少湯の事あり

能事君極少の事ありは事少湯の事あり

先女極少の事ありは事少湯の事あり

種又越中事極少の事ありは事少湯の事あり

先ツち若く程合先女礼の先女字合お淋の上様又を合
有る如故後若若八郎中字の何れ来れ十日以内の精
進解及承名右後之熱のいふ事支我有る言及れと
内之若八郎能定也中字の付右之熱の内之先女礼
先女承合の如故左邊の具能定也中字の言右之
熱も委細入所熱の上先女礼の先女より承合の如
治左邊の方大桑の中是の如委細飯嶋承知而思及
付右飯嶋中字の由治左邊のP也

六月九日

一日日詣合の同席共所遊而のお思ひの機嫌お伺之
但近日所機嫌の肥立多様付毎朝の機嫌
伺ふお思ひ十日方お思ひのP也

六月十日

一豊子代極の水痘の湯の脱皮付
豊子代極よりの上おの成先達の中表より所窺の附札而
以下知有るの得と也 様指居極の中有る見合也

遊り交余り^細の延引^細に成りし付^細望^細從^細先^細女^細一^細橋^細先^細女^細

お伺ひ交 種姫君柳の中^細に而も^細お苦^細し旨

公方様 所初座柳に女使^細の^細上^細物^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細

遊り初^細と^細お^細漸^細の^細右^細筆^細組^細以^細橋^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細但^細る^細了

中^細甚^細の^細短^細た^細の^細表^細而^細右^細様^細更^細の^細接^細毛^細世^細の^細由^細且^細昨^細今

近^細の^細精^細進^細日^細の^細表^細献^細上^細物^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細右^細献

上^細物^細の^細子^細も^細為^細念^細見^細の^細以^細別^細而^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細右^細用

掛^細稻^細葉^細越^細中^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細

の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細

の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細

の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細

十五日^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細

の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細の^細縁^細

十日

一 豊子代縁の水^細瘧^細の^細泊^細湯^細の^細祝^細嫁^細の^細未^細を^細為^細端^細の^細縁^細

宮内口縁より日^細の^細代^細を^細の^細代^細の^細代^細の^細代^細の^細代^細の^細代^細の^細代^細の^細代^細

思召の旨の如く使福村理方夫の如く流中進の旨
右の如く家元流中進の旨 宮内府の如く
入 所轉の旨の如く流中進の旨 右の如く
右進召の旨の如く流中進の旨 右の如く
中流の旨の如く流中進の旨

六月廿一日

一 未の廿七日

豊多代孫の流湯の祝儀の日元之儀の内之越中

書後 但馬守お伺の旨廿七日の如く流中進の旨

紅葉山

所宮及所宮の所進在供養の旨有之付あり有
之如く急波の流湯の如く流中進の旨
物事有之の如く流中進の旨又日限可中右の如く
但馬守の流湯の旨有之の如く流中進の旨
所轉の旨廿八日の如く流中進の旨

廿一日

六一九三通

靈光院極

民約の極

山者を形

代令三百足

右方

豊子代極の水産

濟小為の祝儀

家司より山家先取進書状

中々

六月廿三日

一 豊子代極の沼湯は日取の浅き廿八日の祝儀

二 山家書稻系越中守殿の一通板倉の沼湯

三 山家書稲系越中守殿の一通板倉の沼湯

清のにお進書

六月廿五日

一 山家書

豊子代極

紀伊中納言様

日前中納言様

出千者 一花

番役

丸山 孫四郎

御水痘跡の形瘡 為立り或は拍子に承後以

使中下依之出千者一花に銀を授けりとの趣

六月廿六日

一明後廿八日

豊子代様にお湯の祝儀に付向、書付の御書に

外清水田安日席に成書知申せり

六月廿七日

一明廿八日

豊子代様にお湯の祝儀

宮内口様

内藤中様

河前

豊子代様より奉程元

河使病之候に依りて瘧疾に成りて候事

其の病状より候に依りて瘧疾に成りて候事

河使お勤り候に依りて候事

御用人の使に而右に過に進出候事

御用人の使に而右に過に進出候事

御用人の使に而右に過に進出候事

御用人の使に而右に過に進出候事

御用人の使に而右に過に進出候事

六月廿八日

一日

豊後守代孫の瘧疾に依りて湯に就候事

山名代左之進にお勤り候事

山名代左之進にお勤り候事

廿八日

一日

公方様

河野屋様

豊子代様

鮮朝 一折

女使

但品 河野丸之箱

水之通

一石之祝

公方様

豊子代様



鮮朝 一折

以文

河野屋様

日

以文

右之通

一石之祝

河野

豊子代様

一石之祝

以文

守山八十郎

第壹
但所前 吾修院様
吾子代様
使五五勤

付金合 銀五枚下

所前

豊子代様

二種一為

豊子代様

吾修院様

一種

豊子代様

吾修院様

一種

同日

一右同日

宮内口様

所前

所前

日

所為齋宮

銀五枚下

日

所前

平井 逸平

金五枚下

日

守山八十郎

豊子代孫

一種 元

以使用人

井戸 茂十郎

以兼合而
銀二枚

宮内口孫

河原中孫

河前

豊子代孫

豊子代孫

小宮山利助

右前以浪取

廿八日

一豊子代孫河水痘湯以祝師付

豊子代孫

薩摩了庵

以使

一種 五石足

河前

虎毒丸

一種

日人

河前

茂那椽口

一種

日入兼

薩摩書版

唐書丸版口

一種以

日入兼

但庸那椽 力之助椽口者 出口上計

若院椽口

茂那椽口

一種

日入兼

薩摩書版

唐書丸版口

一種

日入兼

公之通言老口

一石口

水前

豐子代椽口

一豊永代縁の水痘の治湯に祝儀の付

御前

豊永代縁より無合布

御縁亦是也

水谷徳子

田沼能定

右為の祝儀云々

此者一折也

右南人

右より者上無の慰物是上より符云々

御前

豊永代縁より無合布

番頭

御用人

日格

右の祝儀并此者上無の慰物是上より符云々

此より用部屋此方共列座能定中激之

一右の御前共祝儀治湯に御前

一石の祝儀三付 河原形惣出仕畧向主の用納屋
表向の旗の長所蔵蔵惣帳中より

廿日

一日日河沼湯の祝儀有り候 河三家方

河城附の急度違若く肝煎若包の但馬手頼

意之

廿八日

一石の付右の通

河前より

銀拾枚

銀緩巻

豊永代孫より

銀七枚

銀緩巻

石止の頼被泊中より付書卷

石止の頼の家元より 御渡

河中丸

奥の庄河

山添宗元

右目人

銀三枚

古日記

橘

陰

葬

銀三枚

篠崎三伯

山本林西翰

子田玄知

銀三枚

片山宗哲

右度以何... 付... 下...

右於以用人... 納... 用... 人... 也...

御目元町區河

銀三枚

町谷元悦

右於以... 窺... 付... 下...

右於以... 禮... 官... 留... 當... 用... 人... 中... 渡...

御目

銀三枚

設楽多...

右於以... 能... 得... 且... 者... 上... 為... 口... 接... 押... 之... 老... 之...

御目

銀三枚

目甚十郎

御目

銀二枚

末吉善左衛門

右回山... 卷之

全百足

新石能出

但山者一行代

右山者... 卷之

全百足

伊原伊勢守

但右回山

右回山

谷口内藏助

右山者... 下之

山藏

庄元寺宗巴

全百足

伊東玄完

右山者... 卷之

浪手枚

山乳

谷口内藏助

一程

浪手枚

一程

山乃山姥

食籠一荷

合百足

合籠一荷

合百足

合百足

右此祝儀三好山者若二山百足

一山餅之在通

添

下女

大崎

刃器 和名

所中凡

十年参元

和名

大崎

和名

山崎

和名

和名

和名

善隆院

和名

和名 一重
和名 一荷

合百足

合百足

全書百足

内附宗姓

武田伊三郎

小川七子右衛門

山名本以郎

松平熊藏

中根長十郎

三井日山直習番弥右衛門

井上権左衛門

河津平左衛門

内和田宗左衛門

伊东吉右郎

高橋乃助左衛門

相馬将之丞

太岐孫左衛門

水谷梅秀

町野正彦

小嶋玄二

内医師

全百足

日

水谷梅長

珍本休榮

小山幸徳

日牟元

右為正祝儀音

一右為祝儀音大碧白音

内前

紗綾 巻

一程

豊子代極

紗綾 巻

山

善修院極

一程三百足

右為祝儀音

張二枚

お

西年寄与人

日格与人

合五石足

右以祝儀三付五石

右於以陳設以家元元以進

所前

右年寄与人

表儀格也

右抱与人

合五石足

合五石足

銀二枚

右以祝儀三付五石

合五石足

上初

以乳与人

以乳与人

右以祝儀三付五石

廿八日

豊子代縁

豊子代縁

千朝

一石

用人

平田平右左衛門

橋代 五石足

民部口縁

善修院棟

干朝 一石九

民部口縁

善修院棟

茂姫縁

日次

日人無

虎方死後

日人無

民部口縁

豊年代縁

善修院棟

日次

庸姫棟

力之助棟 志口五斗

雅之助柳

お敬のり

お陽のり

口上斗

日人無

夢子代極内水痘弥以快今日以湯為以統

成を上言仕

右内物取承之而和之

而返答此方其申也

廿一日

一右内以三封為以歡在之通使者云云出

松平右近將監

松平月防守殿

板倉依通守殿

田沼重隆守殿

阿部豊後守殿

翌廿九日右例之通於以城以接將申述之但

以上

右之通年目錄之以法目付出級而如也

但先例之通 即代拜世々

一今日

豐子代孫即誕生日所統改付在通

即前

豐子代孫

即居條 一節

但此卷度以頼以用為

庸如柳

力之助柳

雅之助柳

若之助柳

即居條

一節 元

但此子前付迄

若修院柳

新唐餅 一節

右日引

食籠 一荷

所前

若修院標

豊子代標

牙朝 一荷

花前

右通方者五枚

一右日引の祝儀 牙朝先取初免 縁合此方より来

向高番切り切縁の通音

一右日引の祝儀 牙朝引り 日端 牙朝後及らば 廻忌

祝中

一右日引の祝儀 牙朝先取

以吸物

以酒

以家老取

番取

所用人

所用人

白格

桑向流元

山小姓

五例附共

山名留番

山加

山醫師

白格

石目以

石目以

石目以

石目以

石目以

山十人格番

山川り医

山廣及所用人

善修院概

山用人

山用甚

山十人格番

石目以

以海
之切

以吸物

以海

以之切

以海
之切

以吸物

以海
之切

右日切

以海

以之切

以海

以目見

以納戸

以吸物

以海

以甚

以納戸

右子先
以目見以下

以筆

表使

方

以右筆

以末

以中

以乳

天明元丑年四月廿三日

一 尚五月十五日

豊子代極下常呂初御祝儀有之候事急被

由用是より例稻葉越中守殿に能申事申上候事尤前

右の祝有之候書面并口上而も御申事書苗無之候

由被追取候事より次申上候御合付心付得止

申上候由申上候御合付心付得止五月七月

以言お祝儀候事有之候申上候事

五月十五日

一 豊子代様より 御下帯 御結 初祝御付 九通

御前より

豊子代様

御使

赤反

齊宮

漆唯子
麻上下

御下帯 五筋 紅二
白二

御前より

天即... 右... 与... 於... 於... 御口上

御込巻 御使様之御言上

御前より

御使

齊反齊宮

衣服日記
全三百足

綿緬 三卷

鮮朝 一折

御前より

右... 通... 廣... 御口上

松... 中... 御口上

河邊春日人言 須出言

河前

河使

豊子代様より

右林 与多清

緬緬 三巻

衣服日記
日三正年

鮮朝 一折

山日録添

出右と通をり方

河上齋宮の言ふにわが意の返答

豊子代様より

善修院様

右者 一折

右奥取扱

右の外 右方様為最初年

一左と通をり

豊子代様より 右内河邊物有

越前子様より

設帳方

豊子代帳

内者 一丁

奥五板

筑前屋

豊子代帳

内者 一丁

右目込

内者

豊子代帳

鮮朝 一丁

岩印内膳

右の祝儀 付差上

右エウカヨリ

金三百足

右目込

十五日

一右の祝儀 付差上

内吸也
内沼

内家老
番

丙者二

丙用人

日格

丙附

丙小姓

丙近習番

丙相手

丙医師

丙減医

右日外

日廣友

丙用人

日

丙用達

乙系女中

老女之上

表使日格迄

豊子代梅中附

女中不残

右通音

一右付以方共惣出仕衣服深惟子麻上下若用控丙
家老礼節屋内祝儀中工也

一右の家元不忠悦より召付方共賜之
一右の祝儀付奉り相成り通

銀貳枚

お秀の町

右の祝儀付奉り通

安永八亥年

九月十三日

一日

豊多代様御学文御手習初以御成在通

九月十三日

御座召下候

豊多代様御服袖の袖
御座召下候
御座召下候
御座召下候

御見事
御座召下候
御座召下候

河前之遊、河右之方、和存也

要語

久保以郎右衛門

河縁類、石出、用人、以五合

河見、甚、迫、石、出、于、河

河、急、流、初、相、觸、早、而、退、去

河見、甚、引、之、河、机、河、急、中、河、硯、河、料、残、持、出、

石、目、下、之、河、前、石、右、之、方、和、存、在

河、急、中、河、初、遊、早、而、河、机、引、之

河入

但、於、山、溜、河、急、上、以、孫、名、流、持、出、
以、用、人、出、席、岸、若、早、流、入、相、見、

一、左、之、通

河前

河急

交、者

一、折

守山八十郎

右、河、急、中、河、初、遊、早、而、進、

但、河、急、中、遊、早、而、退、去、

河邊答云 如前所答之別言上之

一 右之儀 右之儀 番以用人 服紗之袖麻上下是也

一 河附宗性 以如道智番 服紗之袖麻上下是也

一 河附之由 之奉家 亦右邊之儀 保以右邊之儀 以法以物

於席之下之儀

一 河附女中 以法以上之法 以物之儀

一 右之儀

河附宗性

武田伊三郎

合三百足元

日之邊智番

武田孫多清

右河學文 河之習以手 致以付之儀

右之通 於右通之官 利助中渡之

祖右邊人

豐多代孫 以法之儀 此方其以遊所之由也

以法合以法中之儀

多清

久保以右邊之儀

浪多枚

右河學文 初之付之儀

日吉收

岩子德次

岩子德次
平右衛門

右河子智初二付音

右河子智初二付音

一今口少学又少子智初二付音共少遊所止少早了恐慌

中五

